

6 道民意識調査における「環境基本計画の策定について」のアンケート調査結果の概要

調査の概要(平成18年7月実施)

《調査の目的》

当面する道政の課題について、道民世論の動向を把握し、今後の行政施策の参考資料とする。

《調査項目》 野菜や米などの有機農産物について
森林環境税について
環境基本計画の策定について
犯罪被害者等の支援施策について

《調査の方法》

調査地域	北海道全域
調査対象	道内に居住する満20歳以上の個人
標本数	2,500サンプル
地点数	250地点
抽出方法	層化二段無作為抽出法
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査期間	平成18年7月

《調査実施機関》 株式会社 地域創造研究所

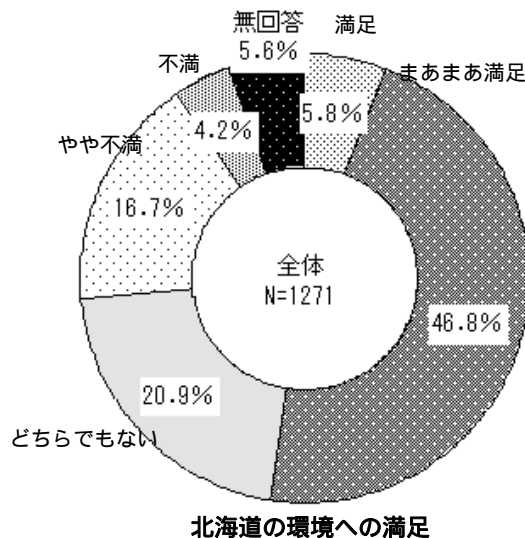
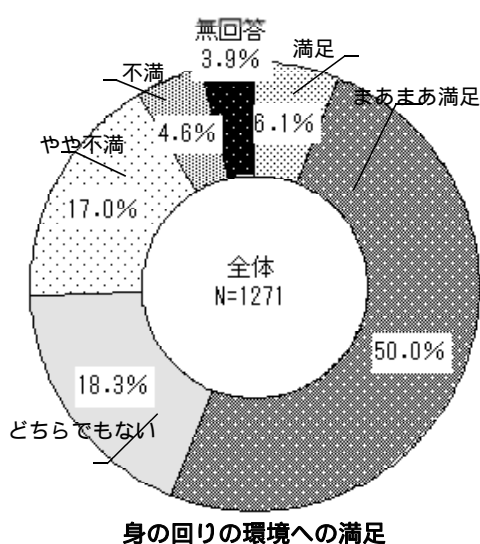
《調査回収状況》

標本数	2,500
有効回収数(率)	1,271(50.8%)

【調査項目：環境基本計画の策定について】

1 身の回りや北海道の環境への満足

設問 現在、あなたは、身の回りや北海道の環境の状況についてどの程度満足していますか。次の項目について、あてはまると思うものにそれぞれ1つ をつけてください。

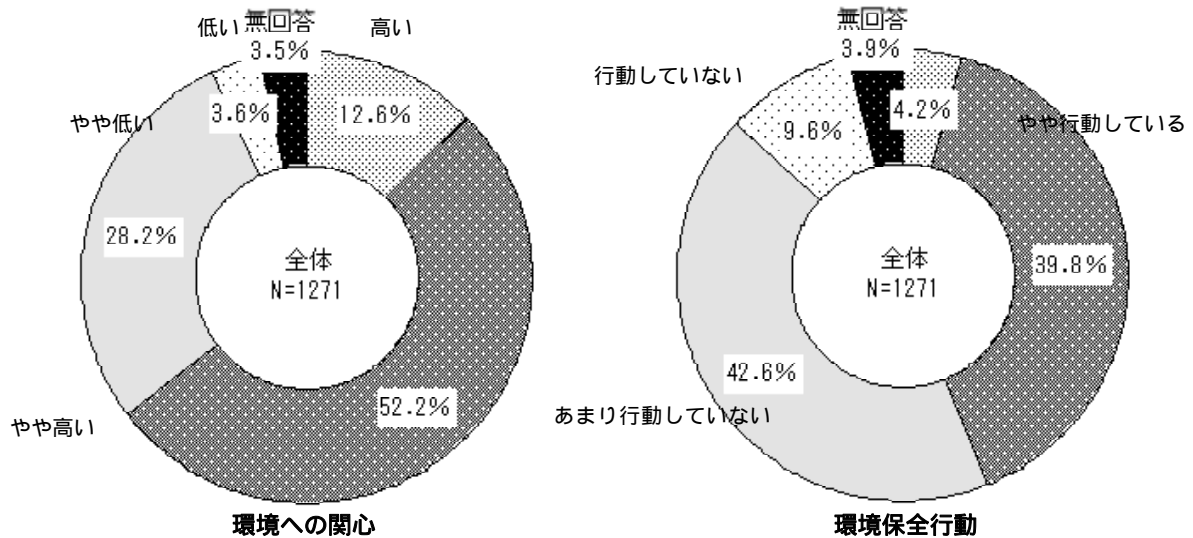


身の回りの環境の状況について、「満足」の6.1%と「まあまあ満足」の50.0%を合わせた回答率は56.1%、他方、「不満」の4.6%と「やや不満」の17.0%を合わせた回答率は21.6%であり、「満足及びまあまあ満足」の回答率と「不満及びやや不満」の回答率の差（以下「満足度」という）は+34.5となっている。

北海道の環境の状況について、「満足」の5.8%と「まあまあ満足」の46.8%を合わせた回答率は52.6%、他方、「不満」の4.2%と「やや不満」の16.7%を合わせた回答率は20.9%であり、「満足度」は+31.7と、「身の回りの環境の状況」よりも低くなっている。

2 環境への関心と環境保全行動

設問 あなたは、どの程度環境に対して関心を持ち、日常生活において環境に配慮した行動をしていますか。次の項目について、あてはまると思うものにそれぞれ1つをつけてください。

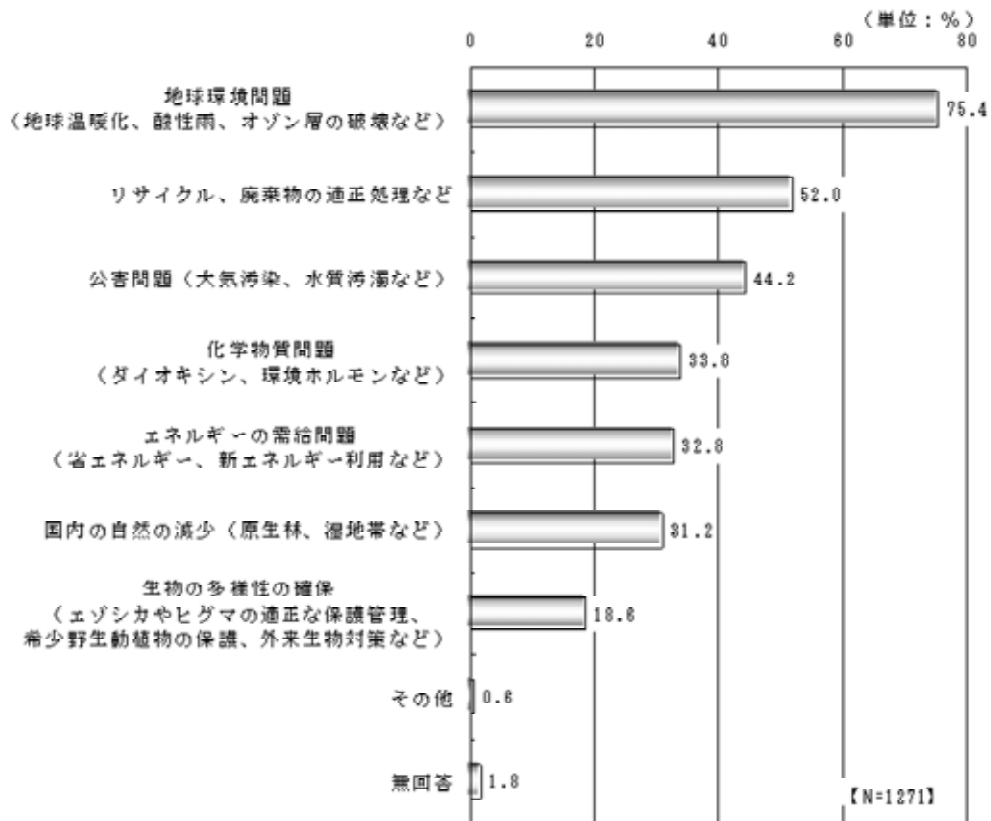


環境への関心について、「高い」の12.6%と「やや高い」の52.2%を合わせた回答率は64.8%、他方、「低い」の3.6%と「やや低い」の28.2%を合わせた回答率は31.8%であり、「高い及びやや高い」の回答率と「低い及びやや低い」の回答率の差（以下「関心度」という）は+33.0となっている。

また、環境保全行動について、「十分行動している」4.2%と「やや行動している」の39.8%を合わせた回答率は44.0%、他方、「行動していない」の9.6%と「あまり行動していない」の42.6%を合わせた回答率は52.2%であり、「十分行動している及びやや行動している」の回答率と「行動していない及びあまり行動していない」の回答率の差（以下「実践度」という。）は-8.2となっている。

3 関心ある環境問題

設問 あなたが関心のある環境問題について、次の中から関心の高いものを3つお選びください。

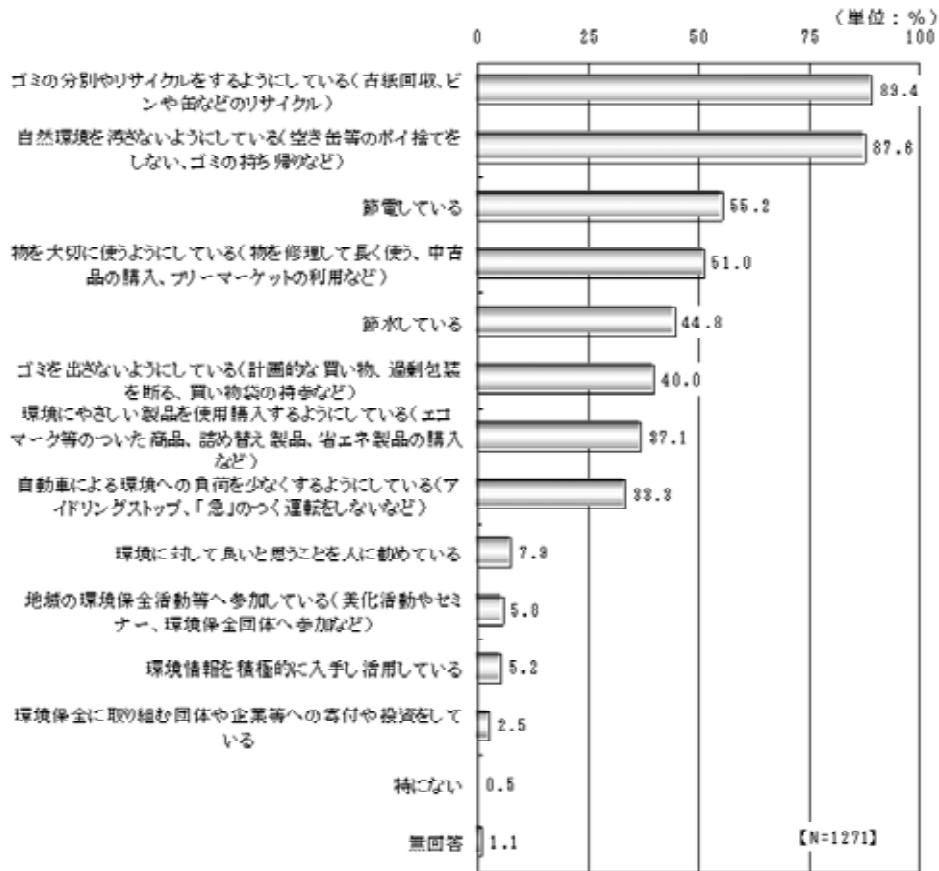


関心のある環境問題としては、「地球環境問題(地球温暖化やオゾン層の破壊など)」への関心が断然高く75.4%を占めている。次いで「リサイクル、廃棄物の適正処理など」が52.0%、「公害問題(大気汚染、水質汚濁など)」が44.2%である。

他は「化学物質問題(ダイオキシン、環境ホルモン)」33.8%、「エネルギーの需給問題(省エネルギー、新エネルギー利用など)」32.8%、「国内の自然の減少(原生林、湿地帯など)」31.2%でほぼ同じ回答率になっている。それに比べて「生物多様性の確保(エゾシカやヒグマの適正な保護管理、希少野生動植物の保護、外来生物対策など)」は18.6%でやや少ない。

4 日常生活で心掛けている環境に配慮した行動

設問 あなたが日常生活において心掛けている環境に配慮した行動を、次の中からいくつでもお選びください。

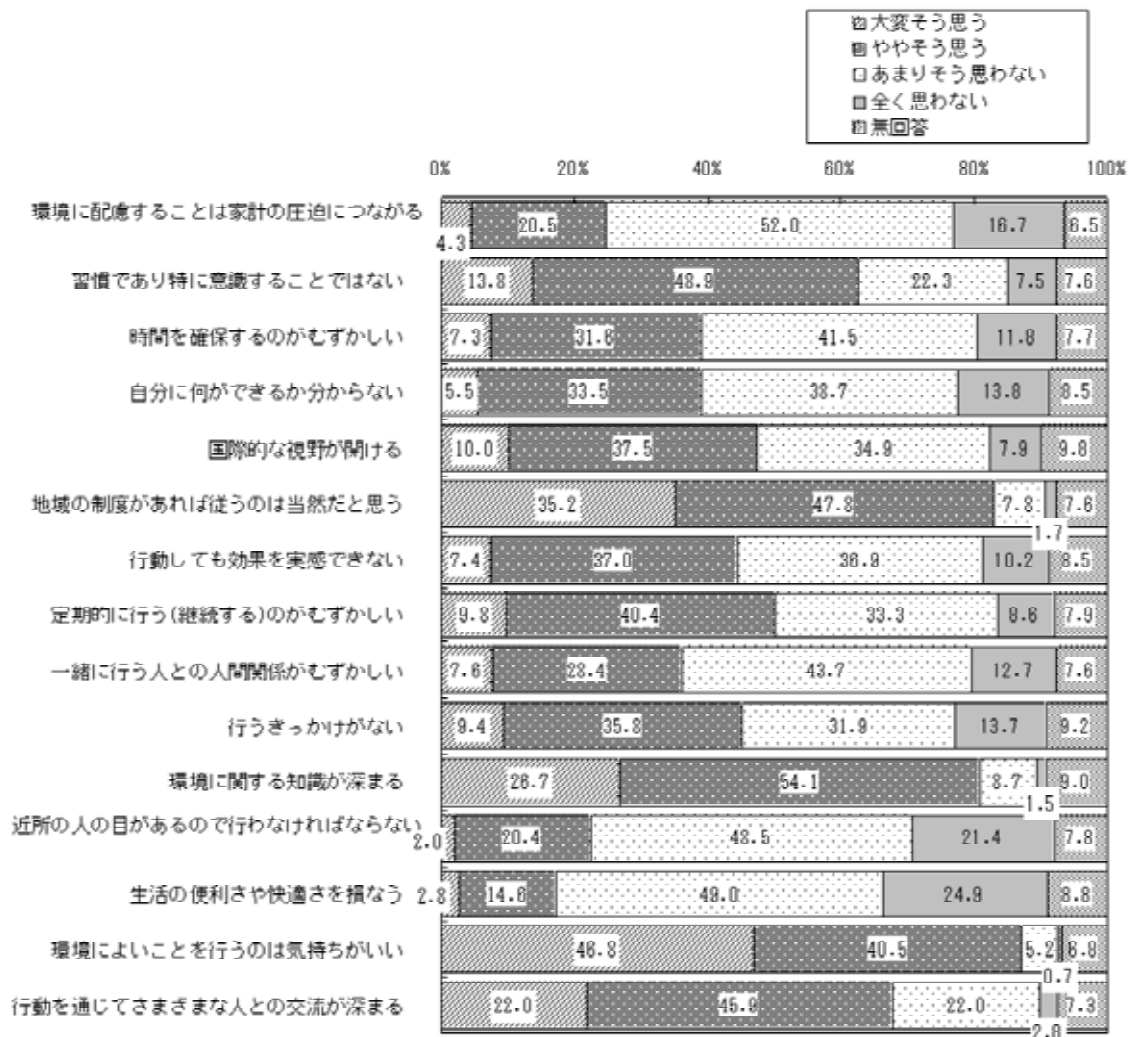


日常生活において心掛けている環境に配慮した行動としては、「ゴミの分別やリサイクルをしようとしている(古紙回収、ビンや缶などのリサイクル)」89.4%、「自然環境を汚さないようにしている(空き缶等のポイ捨てをしない、ゴミの持ち帰りなど)」87.6%の二つが突出して高い。

次いで高いのは、「節電している」55.2%、「物を大切に使うようにしている(物を修理して長く使う、中古品の購入、フリーマーケットの利用など)」51.0%、「節水している」44.8%、「ゴミを出さないようにしている(計画的な買い物、過剰包装を断る、買い物袋の持参など)」40.0%などと続いている。

5 環境に配慮した行動への認識

設問 あなたは、環境に配慮した行動について、どのようにお考えですか。実行の有無にかかわらず、次の項目について、あなたの考えに最も近いものにそれぞれ1つをつけてください。



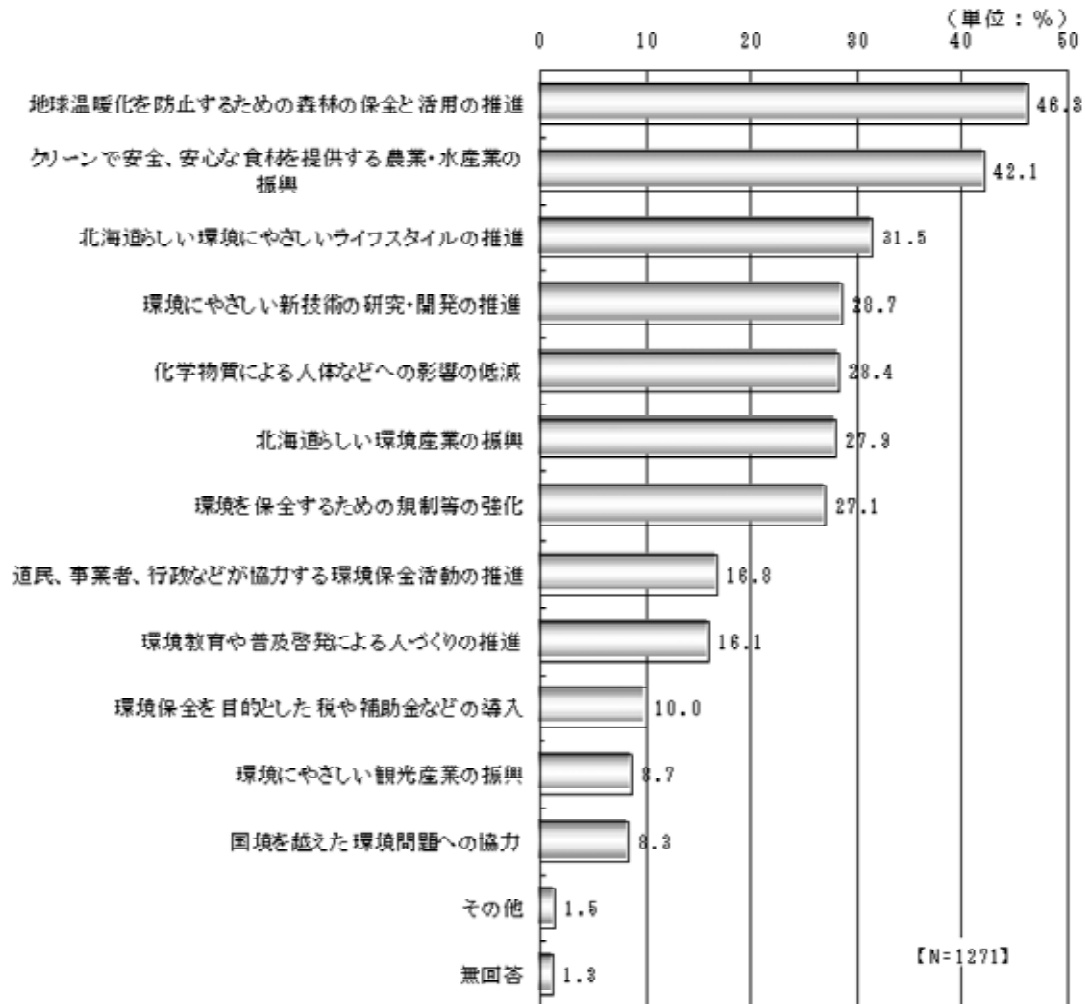
環境に配慮した行動への認識として『環境に配慮することは家計の圧迫につながる』について、「大変そう思う」の4.3%と「ややそう思う」の20.5%を合わせた回答率は24.8%、「あまりそう思わない」の52.0%と「全く思わない」の16.7%を合わせた回答率は68.7%であり、「大変そう思う及びややそう思う」の回答率と「あまりそう思わない及び全く思わない」の回答率の差（以下「肯定度」という）は - 43.9となっている。

『習慣であり特に意識することではない』についての「肯定度」は + 32.9、『時間を確保するのがむずかしい』が - 14.4、『自分に何ができるか分からない』が - 13.5、『国際的な視野が開ける』が + 4.7、『地域の制度があれば従うのは当然だと思う』が + 73.5、『行動しても効果を実感できない』が - 2.7、『定期的に行う(継続する)のがむずかしい』が + 8.3、『一緒に行う人との人間関係がむずかしい』が - 20.4、『行うきっかけがない』が - 0.4、『環境に関する知識が深まる』が + 70.6、『近所の人の目があるので行わなければならない』が - 47.5、『生活の便利さや快適さを損なう』が - 56.5、『環境によいことを行うのは気持ちがいい』が + 81.4、『行動を通じてさまざまな人との交流が深まる』が + 43.1となっている。

これらの結果から、環境に配慮することで家計を圧迫したり便利さが失われたりすると思っている人は極めて少なく、総じていえば、環境に配慮した行動の重要性や良さを多くの人が認めていると言える。

6 環境重視型社会実現に向けての考え

設問 あなたは、環境への負荷の少ない環境重視型社会を実現するために、どのようなことを重視して進めていくべきと考えますか。次の中から特に重視すべきであると考えるものを3つお選びください。

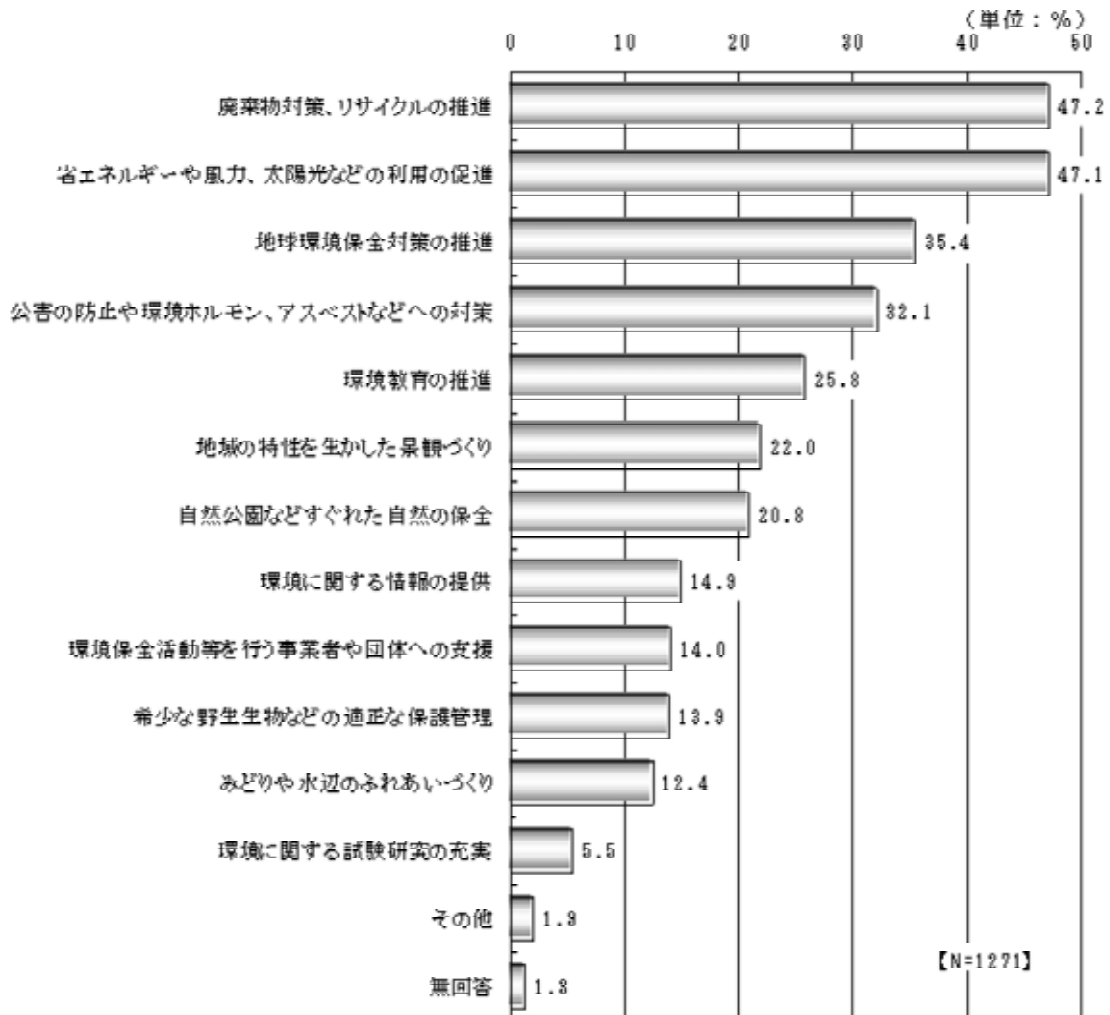


【全体】

環境重視型社会実現に向けての考えとして、「地球温暖化を防止するための森林の保全と活用」が46.3%と最も多く、次いで「クリーンで安全な食材を提供する農業・水産業の振興」が42.1%、「北海道らしい環境にやさしいライフスタイル」が31.5%、「環境にやさしい新技術の研究・開発の推進」、「化学物質による人体などへの影響の低減」などが続いている。

7 環境重視型社会実現に向けて行政が重点的に取り組むべき事項

設問 あなたは、今後行政が重点的に取り組むべきと考える事項は何ですか。次の中から3つお選びください。



【全体】

環境重視型社会実現に向けて行政が重点的に取り組むべき事項として、「廃棄物対策、リサイクルの推進」が47.2%で最も多く、「省エネや風力、太陽光などの利用の促進」が47.1%、次いで「地球環境保全対策の推進」が35.4%、「公害の防止や環境ホルモン、アスベストなどへの対策」が32.1%である。

